

令和2年 12月 29日

協力活動報告書（令和2年 12月分）

清水町長 様

清水町地域おこし協力隊員

氏名 伊藤 隼 印

今月の活動報告	<p>今月はふるさと納税の書き入れ時ということもあり、過去最高の寄附申込みがありました。前年度分が一度に集まる程の数の寄附が、12月にはありました。コロナの影響もあつての事だとは思いますが、ふるさと納税の寄附金額が上がり、清水町を認知してくれる人の数も増えたということです。</p> <p>そんな中、私がしていたことは「ふるさと納税の業務を粛々とする」ことでした。寄附者の方の税金の控除に繋がる申込みであり、事業者と寄附者の方を返礼品という形でつなげる仕事でもあります。</p> <p>どんな理由であれ、今年の寄附額が増えたということは、「来年も申し込んでくれる可能性がある方」も増えたということです。さらには、事業者の魅力ある返礼品を受け取ることで、「この町でイベントがあつたら参加してみよう」や「現地で食べてみたい」といった方もいると思います。</p> <p>ふるさと納税の事務作業での立ち振る舞いそのものが、町のPR活動であると思うと、ただ『ミスなく行う事務作業』という立ち位置から『ミスなく行い、つながりを深める可能性を秘めた、PR活動兼事務作業』となるなど感じ、身の引き締まる思いでした。</p> <p>話は少し変わりますが、美蔓亭さんに発送伝票を届けに行った際にこんなことを言われました。「発送伝票を役場で印刷してくれるようになってから、ものすごく業務の負担が減って助かっている！ありがたい！けど、いつも自分たちで伝票を書いていた時は、あつ、またお客様注文してくれてるとか、なんとなくお客様の顔というか雰囲気伝わってくるけど、最近はその感じがから少し寂しい。」とおっしゃっていました。</p> <p>もちろん、業務の負担もミスの可能性も減っていますし、戻してほしいという話ではないですが、美蔓亭で聞いた話も納得できました。</p>
---------	---

	<p>私も、最近電話やメールで寄附者とのやり取りがとて多くなっていますが、やり取りした方のお名前はなんとなく憶えていますし、実際にワンストップ特例申請書が送られてきたときも「あ、この方はあの時の」というように、ふと思出す時があります。数多く対応しているこちら側でも、そういったある種「知り合いになった」ような感覚になってしまうのですが、これが寄附者側だとしたら、良い印象も悪い印象も強く残るなど改めて感じました。</p> <p>無理難題を全部聞いてあげるといふ迎合するといふわけではないですが、自分がサービスを受ける側だったら、「今の人めっちゃめっちゃ態度悪かったな。声暗っ！」など、正直結構思っています。</p> <p>商売ではなく、ふるさと納税という税金控除の為の国としての取り組みですが、何がきっかけで清水町を好きになったり、嫌いになったりするのかわからないので、そういった心がけで今後のふるさと納税業務に取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>1月にはある程度落ち着いてくるようですが、忙しい時より、暇なときの方がミスは起きる気がしています。「車の運転は慣れたときに事故を起こす」と事故で鎖骨を折ったことがある父が、無事故無違反ゴールド免許の私に口癖のように言っていました。その精神で、今後もふるさと納税業務に取り組んでいこうと思ひます。</p>
<p>要望、意見等</p>	
<p>備 考</p>	